

令和3年度

第1回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日時：令和3年11月29日（火）午後2時～3時30分

場所：鳥取市役所7階議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、田中節哉委員、石塚康裕委員、青木博之委員、
谷田一富委員、赤嶋三千男委員、小坂祐司委員、秋山光行委員、
山本武志委員、綱本信治委員、升田弘法委員、太田章太郎委員、
中野ゆかり委員、贅川 清委員

欠席 沼田宏一委員、田賀成史委員、甲田紫乃委員、坂本朋子委員、
中村 暁委員

オブザーバー 鳥取県地域づくり推進部東部地域振興事務所 田嶋健一 所長
事務局 鳥取市企画推進部長 高橋義幸、
鳥取市企画推進部次長兼政策企画課長 渡邊大輔、
鳥取市企画推進部政策企画課長補佐 平田政志、
同課係長 古網有希、同課主事 伊藤 崇
岩美町企画財政課長 大西正彦、若桜町ふるさと創生課長 谷本 剛、
智頭町企画課長 酒本和昌、八頭町企画課長 岡崎好美
香美町企画課主幹 田村正倫、新温泉町企画課長 中井勇人

説明者 鳥取市市民生活部次長兼地域振興課長 漆原利明
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 大野正美
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課長 平井宏和
鳥取市農林水産部農政企画課課長補佐 蔵増達弘
鳥取市都市整備部交通政策課課長 小森毅彦
鳥取市教育委員会生涯学習・スポーツ課 中原登
有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー事業本部
ガバメント&パブリックサービシーズ 塚越敬介（オンライン）

1 開会

鳥取市企画推進部長あいさつ

2 自己紹介

3 正副委員長の選任

下田敏美委員を委員長に選出、坂本朋子委員を副委員長に指名

<委員長あいさつ>

長引くコロナウイルスの影響で、人の移動や集まりというのが制限されておりまして、皆様方の各種事業におきましても影響が少なからず出ているのではないかなと思います。

最近少し感染が数的には減少しておりますけれども、ご承知の通り、新たな変異株があるのではないかと警戒をされております。感染対策をしっかりと行いながら、各種事業を進めていただきたいと思います。

この因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンは、平成30年4月から令和4年度までの5年間ということで策定され事業を実施しておられますけれども、新型コロナウイルスの中で危機的な状況に見舞われているところも多々ございます。そうした中で、新たな発想とか取組が生み出された面もあるのではないかと期待をしているところでございます。

本日は、麒麟のまち圏域のますますの連携発展に向け、委員の皆様のご活発な議論をお願いし、あいさつとさせていただきます。

4 議事

(1) 連携中枢都市圏連携事業について<事務局説明>

①連携中枢都市圏構想について・・・資料1、1-1

(資料1、資料1-1について事務局説明)

<質疑なし>

②因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業の進捗状況について・・・資料2

(資料2について事務局説明)

<委員>

ちょっとミスプリントを指摘していいでしょうか。ビジョンの2ページの1です。最初のビジョンでは香美町が入ってなかったので、そのときの文書を下敷きにして書いてあると思うんですけども、香美町がなぜ入っていないのかなど。というのは、文章の終わりの方で岸田川、矢田川というのが書いてあって、矢田川というのは香住を通っている川なので、それが入っているということは香美町も入れないといけないのではないかと。

<事務局>

ありがとうございます。ご指摘の箇所につきましては、おっしゃられる通り、1市5町で初めて連携中枢都市圏ビジョンを作った時の文章でございます。その後、香美町さんが参加されて、香美町の情報も記載しておりますが、もともとの文章の方が変更されていないというご指摘だと思います。承知いたしました。ただ、改定の時期ではありませんので、次期ビジョンの策定の時にはしっかりと修正していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

<委員>

それから「鳥取市（連携中枢都市）」の前に書いてある文章も、「6市町」ではなく「7市町」ですよ。

<事務局>

ありがとうございます。ご指摘のとおりですので、また修正させていただきたいと思います。

<委員>

それから資料2の13ページのNo.69の事業のKPIに「佐須」って書いてありますが、「佐津」ですよ。ビジョン本体は正しく書いてあります。

<委員長>

事務局で確認をしておいてください。

<委員>

連携というと観光が中心になるように思うんですけど、コロナワクチンの県境をまたいでの連携というのが、全国的にも珍しいということがあったと思います。せっかくの機会なのでこの委員さん方に、そういった分野で新たな連携が進んだ事例があったらちょっと共有していただければと思います。

<委員長>

ワクチンについては知事が県境を超えてということで、一生懸命全国に先駆けて取組をされました。私もそういう関係の仕事をしておりますけども、実際の事務は市町の方で調整しておられるので、我々の方は医師の派遣等の相談に対応させていただくという状況でございます。

<委員>

鳥取銀行では、平成30年に但馬銀行さんと連携をさせていただきまして、圏域内でのATMでの引き出しを、日中の時間お互い無料に使えるような、金融機関同士の連携をさせていただきましたのでご紹介いたします。

資料2の4ページ、No.18の事業ですが、「とっとり市」の事業実績で圏域出店店舗数が20店舗とありますが、現在が全体で167店舗となっております。この数字の乖離がちょっと理解できなかったのですが、内容を教えていただけたらと思います。

<説明者>

インターネットショップ「とっとり市」の麒麟のまち圏域の出店店舗数というのは20店舗ですが、これは鳥取市以外の圏域からの出店が20店舗ということです。すべて合計をした出店数が、9月末現在で167店舗になります。年度末の見込としては、181店舗でございます。

<委員>

鳥取市以外の出店を強化していきたいという意味合いでしょうか。

<説明者>

その通りでございます。このインターネットショップで圏域全体の商品を取り扱って販路拡大を図っていきたくて考えております。

<委員>

「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業一覧表（別冊）」に記載のある事業費は、

当初からの事業費でしょうか、それとも令和2年度までは実績が記載してあるのでしょうか。

<事務局>

こちらに記載されているのは、計画額だと思いますが、また確認して議事録をお送りする際に回答させていただきます。

⇒<事務局回答>

「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業一覧表（別冊）」に記載している事業費は、平成30年度からの計画額（予算額）です。毎年度、当初予算に合わせて修正をしています。

<委員>

この計画を拝見すると、90事業の中で28事業、約3分の1が鳥取市さんだけが予算を使われていて、あとの町は事業費がない。なぜ鳥取市だけが事業費を使っていて、他の町はないのか、できないのか、あるいはしないのか。連携ということを考えると、それぞれの市町で手を組んでやっていくことが理想なのではないかと思います。事業費の3分の1を鳥取市の予算が占めているという構図が、ちょっと疑問に思うところです。

<事務局>

ビジョンの55ページをお開きいただければと思います。90の連携事業の一覧です。1市6町の全てで取り組んでいるものもあれば、一部の市町で連携して取り組んでいるものもあります。また、中心市である鳥取市の交付税が多いということもございますので、鳥取市で予算立てをして実施している事業もございます。そういったことで、鳥取市の予算額が多くなっており、鳥取市だけがやっているように見えるところもあるかもしれませんが、1市6町で連携しながら事業を実施しております。

<委員>

私どもバス事業は、この昨年からのコロナの影響をかなり受けました。今年に入りましても、5月の連休やお盆の時期、秋にも感染者数が急に増えまして、かなり厳しい状態となっております。

というのも、移動の自粛、緊急事態宣言下におきまして、県を跨ぐ移動の自粛っていうのは、かなりの影響で、高速バスをはじめ今も運休しているバスもあります。

特に観光事業の方は、観光バスが動けません。今やっと修学旅行で県内をめぐっている状況です。県外って言っても、残念なことに出雲とか、松江の方がほとんどで、兵庫の方にはほとんど行かない状況が続いて大変寂しい思いをしております。但馬地域にもいっぱいいいところがあるんですけど、なぜか修学旅行は西に向かってしまうという実態もあります。

いつなったら元に戻るという、先がなかなか見えない状況です。鳥取砂丘は、路線バスもかなり走っているんですけど、いまだにお客さんが帰ってきません。やっと昨日、観光地を巡るループ麒麟獅子バスに、何とかお客さんが乗っておられました。

資料2の14ページですが、私、別の会議にも委員として出席しておりまして、JR鳥取駅前再生会議っていうのがあります。そこで、No.74の事業を協議しまして、何とかリニューアルに

こぎつけたということがあります。中心市街地活性化とか、いろんな事業と連携しながら、この麒麟のまちのビジョンも進めておられるのでしょうか。

<事務局>

おっしゃる通りでございます。交通分野や観光分野など、様々な分野で担当者同士がつながりながら、連携をさせていただいております。

各分野でプロジェクトチームを作っておりますし、それから、担当者会、担当課長会もやりながら、できるところからしっかりとやっていくというところで進めております。

③新規連携事業「麒麟のまちアカデミー運営事業」について・・・資料3

(資料3について、鳥取市生涯学習・スポーツ課説明)

<委員>

麒麟のまちアカデミーは多様な学習機会や情報提供の充実を目指すということですが、鳥取市内だけでも、いろんな無料の講演会がたくさんあります。東部医師会や鳥取県医師会、鳥取大学、新温泉町の加藤文太郎記念図書館、鳥取県立博物館とかいろいろなところがやっておられます。そういったものを、このアカデミー掲示板というようなものを作って住民の方がわかるようにしてもらえたら、参加する人も増えるんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。この「麒麟のまちアカデミー」につきましては、現在鳥取市でこれまで取り組んでおりました尚徳大学や市民大学を、麒麟のまち圏域の方にもご参加いただいて、生涯学習を推進していこうというふうに考えております。

おっしゃられるように他にもいろんな講座があるというのは、存じ上げておりますけど、各種団体が取り組んでおられますので、そこをこの麒麟のまちのアカデミーということで取り組むというのはなかなか難しいと考えております。ただ、連携をしながらこういった講座がありますよってことで、PRをしながら、取組は進めていきたいというふうに思っております。ご意見ありがとうございました。

<委員>

鳥取市の講座を周辺の市町にということですが、逆に周辺の町がやっていることを鳥取市の住民の方にも、お知らせいただいてもいいかなと思います。あとは、YouTube配信が、高齢者向けの講座にはあるんですが、一般の市民向けのZOOMだとか、YouTubeとかそういったものはないのかなと思いました。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。鳥取市民大学ですが、今後12月、1月に新温泉町さんの山陰海岸ジオパーク館の館長さんですとか山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の専門員の方に講師として来ていただいて、周辺の歴史ですとか、そういった郷土文化とかそういったものをお話していただくというような取組も進めております。

あとYouTubeにつきましても、IDとパスワードについて会員登録をされた方のみ、Y

o u T u b e が閲覧できるような仕組みになっております。今後それを拡大して、誰でも見られるような環境にするかはこれからの検討課題だと思っております。

(2) 令和3年度多様な広域連携促進事業について

・・・資料4、当日配布資料「麒麟のまち圏域都市機能等調査分析業務 圏域住民アンケート中間報告書」

(資料4について事務局、当日配布資料について有限責任監査法人トーマツ説明)

<委員>

8番までのスライドが、岩美町と香美町が同じような色で、非常に区別がつきにくいので、色をかえてはどうかと思います。

また、大変いい資料なので、できたらトーマツさんが考えられる考察があったらありがたいなと思います。

<事務局>

グラフの色については、見やすいように修正させていただきます。今回は、中間報告というところで報告をさせていただきました。今後、集計を取りまとめ考察をさせていただきたいと思えます。

<委員>

19番目のスライドに「社会福祉の充実」とあり、高い数字になっております。「社会福祉」というのは比較的、地域というか、身の回りの課題に対して対応することが多いと思います。そういった意味では、比較的圏域間での交流や相互依存というのは少ないように思います。「社会福祉」の内容について、具体的な内容を含めて調査されたのか、あくまで「社会福祉」というくくりの中で調査されたのかその辺りを具体的に教えていただきたいと思います。

<事務局>

住民アンケートにおきましてはこの「社会福祉の充実」という選択肢にさせていただいておきまして、具体的なその中身についての例示というのは記載がない状態で調査をさせていただいたものでございます。

<委員>

もし可能であれば、住民の皆さんが広域圏域内で取り組む課題として社会福祉を挙げてらっしゃいますので、その中身に何を特に期待されようとしているのか、調べていただいたらなと思います。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。本日は、住民アンケート調査につきまして、項目の選択肢の集計結果をご報告させていただきました。アンケートの中には自由記載の欄を設けておりますので、そういったところから圏域住民さんがどういったことを望んでおられるのかということ把握して、今後の施策に反映して参りたいと思えます。

<委員>

ワーケーションができる施設があったら利用するかという質問なのですが、これはある意味、当然の結果ではないかっていうふうに思います。我々は、ワーケーションを受入れる施設を提供しようかという立場ですので、もう少しその視点で、質問や少し掘り下げた検証といいますか、考察があったらいいのかなと思いました。

ただそのワーケーションを受け入れられるかどうかというところについては、市町村にとってはW i F i だとかの整備ができていいのかというふうなところも含めて、整理いただければわかりやすいなど思います。

<オブザーバー>

連携のメリットっていうのはパッと把握するのはなかなか難しいなと思います。一つにそのお金の話をすると多少メリットみたいなものが、わかりやすくなると思います。資料1に、財政措置というのがありまして、連携中枢都市には、普通交付税措置っていうのと、特別交付税の年間1.2億円程度が上限だっているのがあります。それから連携市町村には年間1800万円の上限があるってことですが、実際にどれぐらいお金が来ているかみたいなことも説明してもらって、こういうメリットがあるのだなと感じられるかと思います。

それから、連携の仕方というところで、さきほど委員の方から、観光がメインだけど他に何か連携ないかというようなお話がありましたけども、なかなか他の連携って難しいのだろうなと思います。今日ご説明いただいた中では、高校生の職業体験や病児・病後児保育、婚活サポートセンターなどを、代表的な連携ということで説明いただきましたが。これをもっと増やしていくのも大事なことかなと思います。なかなか難しいのだろうなと思います。

またさきほど委員さんからありましたように、鳥取市だけに事業費がついている事業が、結構多いのですが、この連携の仕組み自体が、鳥取さんが何か事業をやって、それを周りの町民の方も使えますよみたいな連携の仕方が結構あって、連携の質というものは何かちょっと、多少違うなと思っています。

観光事業は、各市町がお金を出し合って圏域全体として売っていくと。で、もう一つ対極にあるのは、鳥取市だけがお金を出して、それを周りの町の人も、使っているですよっていうので、今日ご紹介になった麒麟のまちアカデミーもそんな感じで、鳥取さんがされている事業を、他の町村さんも使えますよというものでした。資料4の一番下の行にありますように、新しいビジョンを作るときに、連携の分野や連携の仕方による分類を加えるなどというような表現がありますが、そういったところがでてくるともっとわかりやすくなるかと思います。もう一つ、連携で一番メリットを感じられるのは、連携町のみなさんなのかなと思います。各町のみなさんが感じられているメリットを、何か教えてもらったりすると、理解が早まるかなと思います。

5 その他

<なし>

6 閉会